

「県北地域感染症情報レター」に関する御意見、御質問等につきましてメールにて返信くださるようお願いします。
県北保健福祉事務所生活衛生部医療薬事課 メールアドレス hofukunet_kenpoku@pref.fukushima.lg.jp

★福島県感染症動向調査 週報★！県北地域情報！〈10月19日発表〉

(県内の情報及び週報は、「福島県感染症情報」を検索してください。)

- RSウイルス感染症の流行が続いています。鼻水、咳、発熱が主症状ですが、0歳～1歳児では重症化しやすく気管支炎や肺炎を起こします。手洗いや手指衛生、咳エチケットを励行してください。
- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナも小流行が見られます。

インフルエンザについて

福島県でも徐々に発生しています！

○インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる呼吸器感染症です。通常の風邪に比べて全身症状が出やすく、肺炎など重症化することもあります。日本では、例年12月～3月頃に流行します。

○感染経路

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる飛沫感染が主たる感染経路ですが、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染もあります。

○症状

1～3日の潜伏期間の後、38℃以上の発熱、頭痛、咳、咽頭痛、鼻水、筋肉痛、関節痛などを呈します。子供、高齢の方、免疫力の低下している方などでは、重症化し肺炎や脳炎になることがあります。

○治療法

対症療法、抗ウイルス薬による治療を行います。

※インフルエンザの場合、使用できる解熱剤に限られます。

医師の指示に従って使用することが大切です。

○予防法

1. ワクチン接種

インフルエンザワクチンは、感染や発症を完全には防げませんが、重症化や合併症の防止に有効とされています。13歳未満の場合は、2～4週間おいて2回接種が必要です。

<インフルエンザワクチンの定期接種>

以下の人たちは、インフルエンザにかかるると重症化しやすいため、定期の予防接種対象となっています。

- (1) 65歳以上の方
- (2) 60～64歳で、心臓、じん肺もしくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活を極度に制限される方
- (3) 60～64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

2. 咳エチケット

飛沫感染対策に有効です。くしゃみや咳をするときはマスクやハンカチで口と鼻を覆うなど、他の人にしぶきが飛ばないようにしましょう。

3. 手洗い

接触感染対策に有効です。流水、石鹸による手洗いのほか、アルコール消毒も効果があります。

4. その他

適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取など。

☆医療機関や高齢者施設などで患者が発生した場合は、速やかに患者の隔離・ゾーニング、同室者やその他接触者に対する抗インフルエンザ薬の予防投与などの対応を行い、感染拡大の防止に努めてください。必要時は保健所へも報告し、対応について協議してください。(参考:社団法人日本感染症学会提言2012～インフルエンザ病院内感染対策の考え方について～(高齢者施設を含めて))



※ワクチンはそのシーズンに流行が予測される株に合わせて製造されるため、毎年接種が勧められます。

麻疹について

平成28年7月以降、関東、関西地方で流行の兆しが見られました。

麻疹は、麻疹ウイルスによる感染症です。10日～12日の潜伏期間の後、発熱、咳、鼻水などの風邪症状、コプリック斑(口腔内の白斑)を呈し、高熱と全身の発疹(耳介後部から広がる)が出現します。肺炎や脳炎を合併することもあります。

☆麻疹予防には、ワクチンが重要です！

麻疹は非常に感染力が強く、免疫のない人が感染するとほぼ100%発症します。麻疹ウイルスの粒子は非常に小さく空気中を浮遊するため、マスクや手洗いで予防が困難です。自分がかからないだけでなく、

周りの人にも感染を広げないためにも、予防接種を受けましょう。

<麻疹ワクチンの定期接種>

- 第1期: 1歳児 ※確実に免疫をつけるために、2回接種しましょう。
- 第2期: 小学校就学前の1年間(5歳以上7歳未満)

福島県 平成27年度定期接種実施率
第1期94.2%(全国43位 全国平均96.2%)
第2期92.2%(全国40位 全国平均92.9%)

(参考) 厚労省HP(感染症情報のページ): www.mhlw.go.jp/

国立感染症研究所 感染症疫学センター: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>